



子どもとメディア 北海道

第32号
2018年
5月発行
今期第4号

ついに北海道で「NPO子どもとメディア」のインストラクター養成講座実現！！

今年度は、子どもとメディアの関係を考える研修会や、『伝える仲間』を増やす企画が目白押しです！ ふるって、ご参加くださいね！！

★ 4月発行予定の最終号が遅れてしまいました。「子どもとメディア北海道」設立当初からの夢だった『いつか北海道でも、インストラクター養成講座を開催したい！』を実現できないかと、「NPO子どもとメディア」の方々や、札幌市で協力者に名乗りを上げてくれた「mother's space ミーナ」代表の菊地さんと奮闘していました。

★ そして、「NPO子どもとメディア」や「子どもとメディア全国ネットワーク」事務局様にたくさんのご尽力をいただいて、ついに、今年の9月に札幌にて開催できることになりました。この講座が、受講者のみなさまに満足いただけ、今後の広い北海道での啓発活動の仲間になっていただけるよう、私も微力ながら協力してまいります。（主催は「NPO子どもとメディア」、「子どもとメディア北海道」は協力団体です。）

★ 現時点での実施内容については、以下の通りです。全講座受講で修了証が発行されます。修了後、所定の要件を満たすことで、認定インストラクターの資格を取得できます。インストラクターは二つの種類となり（予定）、受講者ご自身がその後の活動内容を考え、認定のための要件も考慮して選んでいただくこととなります。もちろん、ご自身の子育てに生かしたり、身近な学校・地域での啓発活動をされる場合は、インストラクターとしての認定を受けなくてもよいのではないかと思います。

くわしくお知りになりたい方は、ナカヤマまでお問い合わせください。

★ 他にも、今年の11月23日（祝日）に、胆振管内白老町で、主催：胆振教育局『アウトメディアフォーラム』が開催されます。諏訪代表のご尽力で日本小児科医会より補助を得ての開催です。1日日程で、基調講演等は、「NPO法人イタズラ村・子ども遊ばせ隊」理事長の早川たかし氏。パネルディスカッションではアウトメディアについて取り上げます。昨年より諏訪代表が呼びかけ人となりネットワークを少しずつ創ってきた「北海道こどもの未来を育むネットワーク」が協力団体となっています。

★ さらに、「NPO子どもとメディア」つながりの団体「NPO 法人子どもと保育研究所ぷろほ」主催で、12月9日（日）札幌市のかでる2.7で、『乳幼児メディアアドバザ―講座2018』が開催されます。チラシを同封しますね。申込などは個人で行ってください。

2018年度北海道地区

確定の内容ではありませんが、実施日は確定、受講料などもほぼ確定です。

子どもとメディアインストラクター養成講座

受講生募集

主催：NPO法人子どもとメディア 協力：子どもとメディア北海道・mother's space ミーナ

★ 子どもたちのメディア漬けは、乳幼児期に始まり、学童期のゲーム漬け、思春期のスマホ・ネット依存と続き、さらには子育て中の親を通じて次の世代へより深刻に連鎖しています。

このような危機的状況を伝え、予防策や対応策を広める人材が早急に求められています。この講座では、子どもとメディアに関する問題の基本を押さえ、予防策、対応策などを学びます。一緒に啓発活動を行ってくださる人材を求めます。

【募集要項】

☆ 受講資格

- ・子どもとメディアに関心があり、子育てや子どもへの関わりに生かしていきたい方
- ・子どもとメディアインストラクターとして活動していただける方

☆ 日時

- ・9月1日(土)、2日(日)、23日(日)、24日(月・祝日) 9:30~16:30
- * 4日間全日程出席が原則です。

☆ 会場

- ・札幌エルプラザ(札幌市北区北8条西3丁目28) (予定)

専用の駐車場・駐輪場はございませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

JR札幌駅北口より徒歩3分。地下鉄南北線さっぽろ駅より徒歩7分。

地下鉄東豊線さっぽろ駅より徒歩10分(札幌駅北口地下歩道12番出口横から建物の中まで直通)

☆ 定員 15名程度

☆ 参加費

- ・受講料 46,000円(消費税込49,680) ※他に必須書籍代として4,000円程度必要

全講座受講で修了証を発行します。修了後、所定の要件を満たすことで、認定インストラクターの資格を取得できます。資格取得については講座中に詳細を説明します。

《申込方法》

- ・下記「参加申込書」にご記入の上FAX、または必要事項を入力して、メールでお申し込みください。受付票・振込用紙をお送りいたします。締め切り 8月22日(水)

・「子どもとメディア北海道」の会員で、養成講座に申し込みたい、またはもう少し詳しく聞きたい方は、事務局のナカヤマまで連絡下さい。(090-3773-8349・michie-n@plum.plala.or.jp)

・おそらく今回の講座後はしばらく北海道での開催は見込めませんので、ご関心のある方は是非!! 定員15名程度ですが、広く広報したら(もしかしたら)定員オーバーということも?その場合は先着申し込み順になりますので、よろしく願いいたします。

「学生のためのSNS活用の技術」(講談社)出版記念トークショー (兼小樽商大講座)

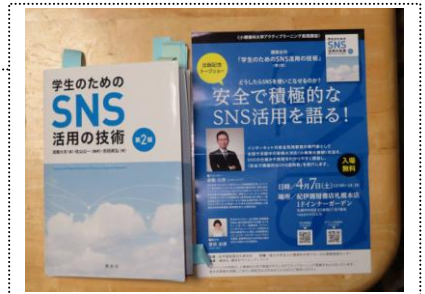
4月7日・紀伊國屋書店札幌本店1Fインナーガーデン

『安全で積極的なSNS活用を語る!~どうしたらSNSを使いこなせるか?~』

スピーカー:高橋大洋氏((株)ミヤノモリ・ラボラトリー社長・小樽商大非常勤講師)

子どもの発達段階で、主に乳児期から義務教育終了の中学生くらいまでを対象にした啓発活動が多いのですが、もう少しその先の高校生や大学生に対しての情報教育についても学びたい出かけてきました。また今春、身近な高校生が夢をかなえて大学に入ったのですが、ほとんどの手続きや大学生活を送る上でネット環境が必須で、彼は「高校生卒業までほとんど使って来なかったため大変だった。」との現状を聞き、私自身も学びたいと思い参加しました。

(中谷)



★ この本は、樽商大1・2年生の一般教養「地域とインターネットリテラシー」という授業の教科書としてつくりました。大学生向けのメディアリテラシーに関する内容です。

みなさんは、今の大学生のことをデジタルネイティブと言うが、実際は日本の大学生はSNS (Facebook など) の利用は下がっています。その原因の一つが、「高校生の時にSNS上に投稿→呼び出され厳重注意→すごく危険なもの、やるべきではない」という経験にもあるようです。

★ しかし私は、メディアリテラシーを身につけながら『生活や仕事の中での実用志向』を持って、SNSを利用してほしいのです。そのためにこの本を使用した大学の授業を通して、SNSの「怖さ」だけではなく「可能性」に気づいてほしいと考えて実践しています。

★ SNSの利用をお勧めしたい人は・・・

- ・生活範囲は徒歩圏内で完結しない
- ・自分や周囲の生活環境が、数年以内に一変する可能性がある
- ・趣味や興味が人と違う、やや変わっている

現代社会では、ほとんどの人が
どこかに当てはまるのでは？な
ので、利用をお勧めしたい!

★ SNSのメリット⇒ 人間と人間のつながりを増幅する装置 (人づき合いを延長、拡げられる)

現代社会では、全ての組織に求められるSNS活用 (既存のメディアは、一方通行である)

- ・商品以外の価値・魅力を伝える
- ・顧客を理解し、そのニーズを組織運営に取り込む
- ・複数の対外窓口となりうる
- ・社内の情報共有がしやすくなる

なので大学生には、SNSを上手に活用できたら、「引く手あまた」だよ!と伝えています。

ところが・・・企業がSNSを活用しない(できない)理由を尋ねると、

- ・SNSを活用できる人材や知見がない
- ・効果があるのかわからない
- ・担当部署がない

- ★ 安全なSNS利用の基本 ⇒ 誰かに見られたら困るものは出さない・範囲設定をしっかりとる
 - ・データを公開する必要性を自分で判断する。

- ・ SNSを利用するのにおすすめの時間 ⇒ 朝起きてすぐ(使い過ぎ予防のため)

- ★ SNSだけに情報収集を頼るリスク ⇒ 異なる視点、多様な視点が不足する
 - ・意見の近い相手をフォローしがち
 - ・親しい相手を優先する

- ★ SNSのしくみ

SNSは、広告で成り立っている ⇒ 運営事業者は、広告主に「利用者」を売っている

- ・いかに利用者に時間を費やさせるか、時間を費やすことで「無料」が実現している

「SNSは怖い・危ないものなのか」をしくみを理解しながら、自分で考える

- ・利用者は、利用することで「期待されるメリット」と「想定されるリスク」の両方を考える必要
- ・事業者には、「SNSは怖い」とならないように信頼を得るための一層の努力が必要

- ★ SNSで情報収集する時のコツ

- ・インターネットでの検索サイトは、「キーワード」が入口
- ・SNSでは、情報源としての「人」が入口 ⇒ 調べたい「人」のリアルタイム性、相手の本音、相手の周囲のつながり、過去の発言を遡る、本や新聞やテレビでの評価なども判断基準になる

- ★ SNSでの情報発信する時のコツ

- ・伝えたい相手はだれかを明確にする
- ・どう伝えと効果的か考える(内容・表現・機会)
- 人間の心理や行動についての理解と経験が必要
- ・どのSNSを選択するか、それぞれの機能の理解

例えば、感情(皮肉・怒り・深刻さ・悲しみなど)を伝え合うのは、対面がもっとも伝わりやすい。

テキスト(メールやSNSのやりとり)には限界があることを知り、伝わる自信のないことをテキストで伝えない方がよい。対面・音声(電話など)・テキストなどの手段を使い分けるのが大人。

☆ 高橋先生が話される内容は、大学生や私達大人がきちんと知っておきたいことばかりでした。私はフェイスブックをしています、結構個人情報も出していて、範囲設定を「友だち」にしているとはいえ今一度見直してみようと思ったり、逆に、もっと上手に利用して、子育て支援の重要性やアウトメディアの必要性を広く伝える方法をネット上でもできないかな?なんてことも思えました。

☆高橋先生には小学3年生と6年生のお子さんがいらっしゃるそうで、トークショー後にご挨拶がてら「先生はご自身のお子さんには、いつ頃からSNSを使わせますか?」とうかがいました。先生は「今はまだ何もさせていないしスマホも持たせていません。どのSNSをさせるかよりも、どんなモバイル(機器)でさせるかが重要と考えているので、したいと言われたら持ち運びできない機器(パソコンなど)でさせると思います。スマホは義務教育のうちには持たせないでしょうね。」と話されていました。

「子どもとメディア北海道」の会員さんのメールから、ぜひ紹介したくて・・・

宗谷管内豊富町 池田 亮子さん

情報誌 26 号でも紹介しました池田さんの取り組み、その後も以下のように続いています！！

【メールの前半は削除・太字や下線はナカヤ】

私の娘が中1の時にクラスで始めた、携帯電話やメディア端末のアンケート調査が、今年で三年目になりました。アンケートの実施が全学年に広がり定着しつつあり、嬉しいです。

娘の学年では、親と先生が協力してアンケート調査を実施し、結果をまとめて、学級懇談会で保護者に発表するという流れができたので、それを三年間続けられて良かったと思っています。

何より、私以外にも関心や危機感を持っている保護者が複数居て、考え方を話し合うことができたのが一番嬉しかったです。

また、娘の中学には、いつからか修学旅行に個人の携帯電話やスマホの持ち込みOKという、嫌な習慣があったのですが、今年の担任が一切禁止にしてくれました。

私としては、修学旅行のために、また娘にスマホを買ってと言われなくて済むので本当に嬉しく、先生にはお礼を言いました。

個人に持たせない代替え対策として、グループに一台レンタル携帯を持たせ、連絡は取れるようにするとか、個人と学校の備品でデジタルカメラを全員分用意し、生徒が写真を撮ったり SNS にアップしたい気持ちは尊重しており、非常に上手に対応して下さったと感心しています。

旅行会社で、修学旅行にスマホを持たせている学校は珍しいと言われた、という先生からの話も、保護者や生徒からの不満を緩和したようです。

・学校の全学年にアンケートが広がって、それが学級懇談会の話題になる・・・地道ですが、家庭で考えてもらうには最も効果がありそうです。すごい取り組みですねえ～。

・中学生の修学旅行にスマホを持たせない、代わりにグループにレンタル携帯を持たせると言うのは聞いたことがあります、デジタルカメラ全員分というのは小規模校の良さを生かしていて good！！

H30年2月から4月までの活動報告

月日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
2月2日	富川小学校就学時健診時講話(日高町教育委員会)		中谷
	伊達東小学校PTA		
2月5日	常呂中学校PTA (北見)		中谷
6日	常呂小学校5年～6年 + 常呂中学校全校生徒		
2月7日	平取高校2年生(家庭科の授業)		中谷
2月9日	虎杖小学校6年生 (白老)		中谷
2月13日	日新小学校4年生 (苫小牧)		中谷
2月14日	室蘭子育てレンジャー講習会(室蘭社会福祉協議会)		中谷
2月15日	新冠町子育て研修会(新冠町教育委員会)		中谷

2月16日	日高小学校（日高町教育委員会）		中谷
	地球岬小学校学校連携研修会（室蘭）		
2月26日	美唄市子育てサポーター研修会（美唄市教育委員会）		中谷
2月28日	虎杖小学校PTA（白老町）		中谷
3月5日	黒松内町小中学生いじめを考える会（黒松内町教育委員会）		中谷
3月10日	歌志内家庭教育講演会（歌志内教育委員会）		
3月13日	更別中学校（全校生徒+PTA）（十勝管内）		中谷
3月14日	ゲームや携帯電話・スマホが心や体に与える影響～いろいろなリスクを知ろう～	中富良野中学校（上川教育局・中富良野教育委員会）	諏訪
4月7日	スマホ・テレビゲーム・ビデオ等の繰り返し利用による子どもの育ちへの影響～乳幼児期に大切にしてほしいこと～	真和保育園（旭川市）	諏訪
	スマホ・テレビゲーム・ビデオ等の繰り返し利用による子どもの育ちへの影響～乳幼児期に大切にしてほしいこと～	まこと保育園（旭川市）	諏訪
4月18日	上幌向中学校（全校生徒+PTA）（岩見沢）		中谷

★ 2017年7月より2018年3月まで隔月で5回、蘭越町の広報誌の生涯学習情報コーナー「こぶしにまなぶ」に寄稿させていただきました。主に「思春期の子ども達への電子メディアの影響」ということで書かせてもらいましたので、会員さんには配布させていただきますね。

会員更新の時期となりました。

2018年度の会費の納入をお願いいたします。年会費（1500円）を、手渡しか、郵便小為替か郵便振り込みにて納入ください。ご面倒をおかけしますが、何卒よろしくをお願いいたします。2018年度の情報誌の発行予定月は、2018年7月・10月・2019年1月・4月の4回となります。

年会費の納入方法

- ①年会費1500円を、事務局に手渡しする。
- ②郵便小為替1500円分を事務局まで郵送下さい。
- ③中谷個人郵貯口座【中谷通恵 ナカヤミチエ 19070 53986411】に、振り込む。

（その場合は、必ず振り込んだことを、ナカヤにメールか電話で伝えてください。）

*新規の方や、次年度と情報誌の発送先が変わった方は、事務局まで、住所をお知らせください。（090-3773-8349・michie-n@plum.plala.or.jp）